

2023（令和5）年度 東北アジア研究センター共同研究報告書

提出 2024(令和6)年4月8日

代表者 平野 直人

(本報告書はセンター内外への公開を原則とします)

研究題目	和文) 道東太平洋岸の地質基盤が支える独特な地形・気候・沿岸生態・地域産業とその地域普及活動 英文) A publicity campaign of the social, ecological, industrial environments originated from geological basement on Pacific coast, NE-most of Japan			
研究期間	2023（令和5）年度 ～ 2024（令和6）年度（2年間）			
研究領域	(D) 自然・文化遺産の保全と継承			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	平野 直人	本センター・准教授	地質	総合統括
	石川 孝織	釧路市立博物館・学芸主幹	地域産業	地域産業
	高倉 浩樹	本センター・教授	文化人類	地域歴史文化
	辻森 樹	本センター・教授	地質	岩石キュレーション
	パストル ガラン ダニエル	本センター・助教	古地磁気	地磁気観測（古地理復元）
研究経費	学内資金	センター長裁量経費 [金額] 300,000 円		
	外部資金(科 研・民間等)	0		[小計] 0
	合計金額	300,000 円		
研究の目的と本年度の成果の概要 (600-800 字の間で 専門家以外にも理解 できるようまとめて ください。)	海底噴火起源の岩石が海岸沿いに分布する固い地質によって、本来海底に没するはずの道東太平洋岸を陸化と特異な地形は、低地の高層型湿原、酪農の発達、アイヌ文化のチャシ（砦や祭祀場）位置、現代の港湾拠点の位置に至るまで、本地域固有の地質基盤に影響されている。本研究現地博物館と協力し、この環境が世界的に特異な地質に基づく地域独特のものであると位置づけ、申請者が現在の海底火山として研究を行っている北西太平洋深海底火山研究（プチスポット：Hirano & Machida, 2022）を実例とした地域普及活動を行うプロジェクトである。 釧路市立博物館での活動実現に向けて、石川学芸主幹と現地研究打合せを行い、特に地質分布と港湾分布の関係の調査を進めた。研究室では、普及素材の準備として、岩石の化学組成、分布状況、露出形態データのデータベース化、岩石の加工、追加化学分析を進めた。当地域の学術論文（根室地域の地質と起源に関する論文：Yutani et al., 2023）が公表されたため、SNSでの宣伝活動も行った。さらに本研究実現に向けて、旭硝子財団「サステイナブルな未来への研究助成」発展研究コース（5,188千円）、および富士フィルム・グリーンファンド活動助成（1,888千円）へ申請したが叶わず、現在三菱財団人文科学研究助成（4,880千円）を申請中である。次年度5月には、日本地球惑星科学連合2024年大会が主催する当地域への一般向け巡検コースを京都大学の成瀬准教授とともに立ち上げた。			
本年度の活動における東北アジア地域研究としての意義についてアピール	本地質は、千島列島南部の北方領土から根室～釧路、さらにそのラインから屈曲し十勝平野東部～常呂地域～サハリ州のТониноАнивский半島～Терпения半島にかけて連続分布するオホーツク沿岸域の地質帯であり、歴史文化に大きな影響をもたらしてきた。			

研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など： 0 回		国際会議： 0 回	
	研究組織外参加者（都合）： 人		研究組織外参加者（都合）： 人	
研究成果	学会発表（1）本	論文数（1）本	図書（0）冊	
専門分野での意義	[専門分野名] 地質学	[内容] 本対象地質の起源として、現在よりもはるか東方またはあ東南方を起源とし、日本列島の中で唯一ユーラシア大陸源と「しない」希有な地質と位置づけられる。また、北方領土の歯舞群島・色丹島と同じ地質とそれに伴う地形や気候・生態が連続する。		
学際性の有無	[<input checked="" type="checkbox"/> 有 / 無]	参加した専門分野数：[5] 分野名称[生物学・人文地理学・気候学・考古学・社会学]		
文理連携性の有無	[<input checked="" type="checkbox"/> 有 / 無]	特筆事項： 上記に同じ		
社会還元性の有無	[<input checked="" type="checkbox"/> 有 / 無]	[内容] 現地普及活動を目的としたプロジェクトである。		
国際連携	連携機関数： 0	連携機関名：		
国内連携	連携機関数： 1	連携機関名： 釧路市立博物館		
学内連携	連携機関数： 0	連携機関名：		
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数： 0		参加学生・ポスドクの所属： 0	
第三者による評価・受賞・報道など	なし			
研究会計画全体の中での当該年度成果の位置づけと今後の課題	データ収集、素材作成、資金調達において、普及活動実現に向けた時期である。2026年度実現に向けて引き続き継続する。特に助成金採択が大きな目標である。			
最終年度	該当 [無]			

本共同研究に関わる業績（発表予定含む）

[学会発表] 平野直人・三國和音・町田嗣樹（2023）深海底におけるプチスポット火山の噴火様式。地球惑星科学連合 2023 年大会, SVC34-07（幕張メッセ, 千葉, 2023 年 5 月 24 日）招待講演

[雑誌論文] Yutani, T., N. Hirano, H. Tanaka, H. Sumino, S. Machida, S. Sekimoto, S. Yoneda, Y. Kato (2023) An intraoceanic juvenile arc of shoshonite and adakitic andesite in the Nemuro Belt, the Lesser Kuril Arc, across the K/Pg boundary. *Cretaceous Research* **147**, 105510.

[その他] 平野直人（2023）プチスポット海底火山。第 199 回 深田研談話会（深田地質研究所 研修ホール, 本駒込, 2023 年 11 月 10 日）依頼講演

*ファイル名は KyodoRpt_年度_代表者ローマ字とする。二つある場合、代表者名の後に 1, 2 と記入する（例 KyodoRpt_2013_oka1）。